

たかくまだより

R8.5.20 第23号 高塚熊野神社



ヤタカラ君

FMHaro
「たかくまだより」
第4木曜 17:30~
第22回放送



高塚熊野神社のご神徳をあらわす言葉

高塚熊野神社のご神徳（神様のご加護やご利益のこと）について、これまで「開運みちびき」「縁結び」「技芸上達」など、人々の多岐にわたる思いや祈りから、様々に伝え語られてきました。

そしてこのたび、当神社のご神徳をあらわすことばとして、次の2句を定めました。

◆「再びの息吹 甦りの社」・・・魂のケガレを祓い、良縁へ導きます。再生・再出発を後押ししていただけるという意味です。

◆「甦りの音霊が響く社」・・・音楽の街浜松市に鎮守するからこそ、音霊の力をもって技芸上達や楽器を守るなど、良い方向へ導

いていただけるという意味です。

4月18日の第52回「四季の萩の会」では、講師の戸塚昌宏宮司が、この2句の解説を行いました。また5月1日早朝の月次祭（月2回開催）でも、参詣者へ説明がなされました。

次回第53回「四季の萩の会」
「夏の会」は、7月25日（土）
午後3時より。
会場 高塚熊野神社「仮殿」
内容「大祓詞」奉唱／神道講話
講師 宮司 戸塚昌宏
参加費無料、予約不要



トピックス

覆殿の屋根、上棟しました



4月25日（土）の稲荷大祭の前、午後2時より社殿屋根の上棟祭が斎行されました（神事など詳細は裏面掲載）。神事を終えて関係者一同は、特別に安全が確保された状態の、棟上げされた覆殿の屋根に上りました。そこでは、これまで瓦屋根を支えてきた既存の木材がたくさん使われた、新しい屋根の骨格が見られました。また釘を使わない木組みが施され、神社の新しい屋根が日本の伝統的な建築技術で造られていることがうかがえました。

「たかくまだより」のバックナンバーは、神社の公式ホームページやSNSから読みいただけます。

稲荷神社の大幟が新調。常設ポールも新設。

境内社 稲荷神社の大幟は、35年前の平成3年(1991年)に奉納され、以降代々の総代さんが毎年、木製の柱を立てて揚げてきました。

今回の屋根改修事業への奉賛として、大瀬町の(株)渡部建設様から大幟の新調、

そして掲揚作業を省力化するため常設の金属ポールの新設、以上が奉納されました。



ニュース 関係神社連絡会、開催。

5月9日、戸塚昌宏宮司が奉務する複数の神社が集い、日々の神社運営に対する情報交換の場として、関係神社連絡会が行われました。

各神社の現状報告や10月の例大祭の日程確認などが行われました。

※裏面：特集記事「たかつか熊野春祭り」メモリアル

たかつか熊野春祭り 4月25日 メモリアル

たかくま稲荷市



「たかくま市」
公式 Instagram



毎月最終土曜日に催される「たかくま市」の拡大版が「たかくま稲荷市」。今年は高塚会館西の広い参拝者用駐車場いっぱい、キッチンカー・スイーツ・ハンドメイド雑貨店など40店舗が出店しました。



浜松市立高校吹奏楽部の有志によるミニコンサート。木管・金管・打楽器で構成するアンサンブルでした。

ガラポン抽選会

マルシェ会場内では、お米が当たる抽選会も行われました。



当日のミニコンサートのYOUTUBE動画。全曲聴けます。



本殿覆殿の上棟祭



午後2時より、戸塚昌宏宮司により上棟祭が斎行されました。業者代表として施工主(株)イナケンの稲垣俊二社長が玉串を奉奠されました。



棟木に「棟札」が打ち付けられました。棟札は守護札として、建物がある限り永久に残ります。



南側(拝殿側)から見た新しい覆殿の屋根の骨格。旧・屋根は平入りの流れ造でした。新しい屋根は45度回転させたような、熊野王子造に近づけて、妻入りに改築しています。

稲荷神社例大祭

午後3時より、稲荷神社の例大祭(稲荷大祭)が斎行されました。稲荷神は、五穀豊穡(米をはじめとする穀物がたくさん収穫できること)や商売繁盛の神様として知られています。日本中に3万2千社もあるといわれる人気の神様で、総本宮は京都市伏見区の伏見稲荷大社です。

なお、神道系の伏見とは別に、豊川稲荷(妙厳寺)を中心とする仏教系の稲荷も数多くあります(お宮の近くの高蔵寺さんにも稲荷があります)。



神事では、戸塚昌宏宮司が祝詞を奏上し、巫女が神楽舞を奉納。神事のあと、恒例の投げ餅が行われ、紅白のお餅が振舞われました。

